

# 路

路面電車を6年間、カメラを手に追い続ける人がいる。ササラ電車のインパクトに圧倒されて以来、その魅力にひき込まれたという、野村耕一氏だ。かつて、札幌市電の運転手を務めたこともある。電車の警笛を身近に感じていたから、住まいも路線沿いに移した。そして、いまも時間の許す限り、フラインダーを通して路面電車と向き合っている。

「四季を写し込むことで、街の

顔が見える」と話す野村氏。普通では見落としがちな路面電車の豊かな表情も、彼の目には鮮やかに映し出される。「野村さんの写真には、市電への愛が感じられる」。そう言われるのが、なにより嬉しい。ただ残念なのは、札幌の空が年々狭くなっていること。街にマンションがあふれ、絶好の撮影ポイントは次々に姿を消した。それでも野村氏は、シャッターを切り続ける。この街に路面電車がある限り。



Kouichi Nomura



## 聞く、見る、学ぶ。遺産めぐりの旅に人は浸る。

シーピーツアーズ

戎谷 侑男

# 地

元食材を使った料理を心ゆくまで味わい、それぞれの地に息づく歴史や自然に浸り、深い感慨を土産に家路に着く。北海道遺産をめぐる旅が人気だ。遺産選定直後の2001年から遺産めぐりのツアーを企画している、(株)シーピーツアーズ常務取締役 戎谷侑男氏は、その人気をこう語る。

「単なる物見遊山観光の時代は終わりました。一般のツアーにはない、聞く、見る、学ぶことのできる旅こそが求められているのです」

聞けば、リピーターの割合は全体の40%。一度参加し、その土地の歴史に触れると、また次の地を訪れてみたくなる人が多いようだ。中にはこのツアーで、遺産全制覇をめざす人までいるのだという。

06年春には、新たに20コースを設定。その後も、季節に見合ったコースを企画しているという。バスの心地よい揺れに身を任せ、歴史に思いを馳せるのも悪くない。



北海道遺産びと

楽しむ

Yukio Ebisutani